

資料1 「キリストにはかえられません」I'd rather have Jesus 略解

作成 2023-11-14 岡本雅幸

「キリストにはかえられません」は、二〇世紀に作られ世界で愛唱されています。日本では、中田羽後氏の名訳で聖歌(521番)、聖歌総合版(539番)、讃美歌第二編(195番)、新聖歌(428番)、讃美歌21(522番)などに収録されています。

ある牧師がブログで、「いつでも、どんなときでも、自分自身の信仰告白として、まっすぐな心でこの曲を賛美できる者とされたいなあと、心から願う者です」と言っておられるのがとても印象的です。

作詞 レア・F・ミラー (Rhea F. Miller、1894 - 作詞:1925 - 1966)

ミラー夫人は、マーティン・ロスとバーサ・ロスの一人娘としてニューヨーク州で生まれました。夫と死別後ミラー夫人は牧師の子供たちに、彼らが大人になったときに教会で奉仕できるようにピアノを教えていました。

彼女の母親バーサは忠実なクリスチャンで、雨、雪、みぞれ、どんな天候であっても、神の民と礼拝するためだけに教会まで歩いて行きました。その一方、父親マーティンはアルコール依存症で、妻の財布から酒代を盗む事もあったそうです。

しかし、母親バーサとミラー夫人の信仰と祈りは、マーティンが恐ろしい罪の支配から解放されるという素晴らしい実を結びました。彼は妻と娘が臨席する礼拝で、アルコールから解放されたことと、「私はこの世の金や銀、お金で買えるすべての家や土地よりも、イエス様が欲しいです」とイエスが彼にとり如何に大きな存在であるかを証し、後に牧師となりました。この父親の証がきっかけとなり「I'd rather have Jesus」が作詞されました。

作曲 ジョージ・B・シェー (George Beverly Shea、1909 - 作曲:1939 - 2013)

シェーはカナダのオンタリオ州でメソジストの牧師の息子として生まれましたが、経済的理由で大学を中退して働かざるをえませんでした。しかし、プロ歌手に劣らぬ才能に恵まれていた彼は、父親の教会の聖歌隊で公の場としては初めて歌い、その後近隣教会や当地ラジオ局で讃美歌を歌う奉仕に励みました。

彼が歌うすべての讃美歌は、イエス・キリストの救いの力と、彼のイエス・キリストへの信仰の証しでした。同時に彼自身の信仰を込めた作曲家でもありました。

彼が23歳の時、14年前に書かれたレア・H・ミラー夫人の詩「I'd Rather Have Jesus」との運命的出会いを経験します。その時のエピソードがこう伝えられています。

自分が気に入った詩をピアノの傍らに置くとシェーが読むのを知っていた母親は、ある時「I'd rather have Jesus」の詩をピアノに置きました。息子が人生の選択に迫られた時、正しい判断が出来るようにと願っての事でした。それを見つけ、読み、インスピレーションを受けたシェーは、ピアノの前に座り、この時湧き上がってきたメロディーで歌い始めました。この様にして、今日最も有名な讃美歌の一つI'd rather have Jesus「キリストにはかえられません」が誕生したのです。

この讃美歌にまつわるエピソードはこれだけではありません。そのシェーは、ある経緯があってアメリカ四大放送会社の一つのオーディションを受け、それに合格しました。これはプロ歌手としての将来が約束された荣誉あることでしたが、神の御用を果たす音楽伝道者となることを選び取り、キリスト教放送のDJ、大衆伝道集会における独唱者・合唱指揮者として音楽による伝道に献身し、伝道者ビリー・グラハムと共に働き世界中でこの讃美歌を歌い続けたのです。

以上